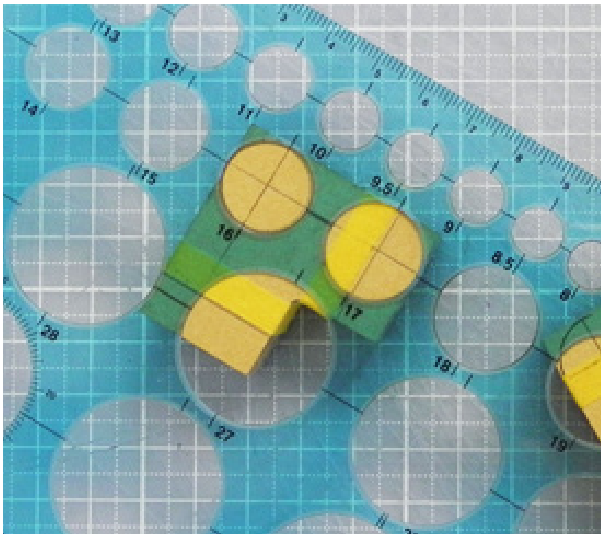
アクリルの小片を作る

これは本文の「Ⅳ その他銅版画制作に便利な道具」で述べているもので、印刷のときに使用する。インキ詰めを終えて拭き上げた版をベッドプレートに置く際に、その位置の微調整が生じる。それは一度に決められた位置に置けないからである。それで、版を指でもって動かすことになる。そうすることで指が版に触れ折角仕上げ拭きをした版が台無しになる。またベッドプレートを汚し、しいては印刷用紙をも汚すことになる。

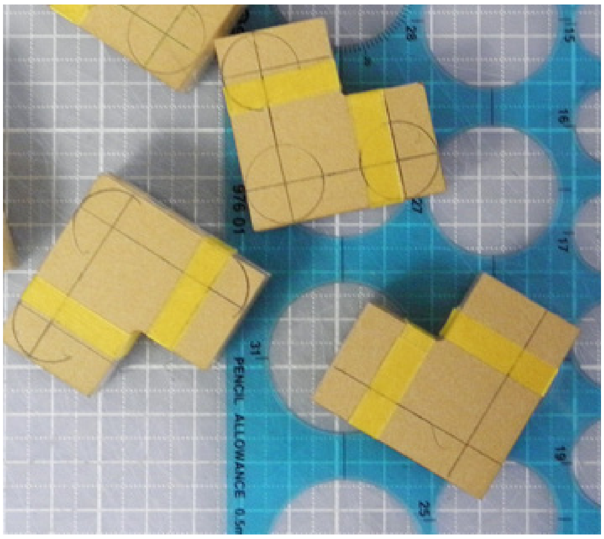
それで、直接指で版を動かすのではなく、アクリルの小片を用いるとよい。大きさは 40 × 40 × 10 ミリで、一つの角を 17 × 17 ミリで切り落とす。他の角はディスクサンダーで丸め、周囲をヤスリで面取りする。使い方は、拙著「銅版画技法」Ⅱ -12「印刷のための補助具」の 107 頁を参照されたい。

写真のアクリルの小片は、先に述べた大きさにカットしたものをネットにて購入したものである。

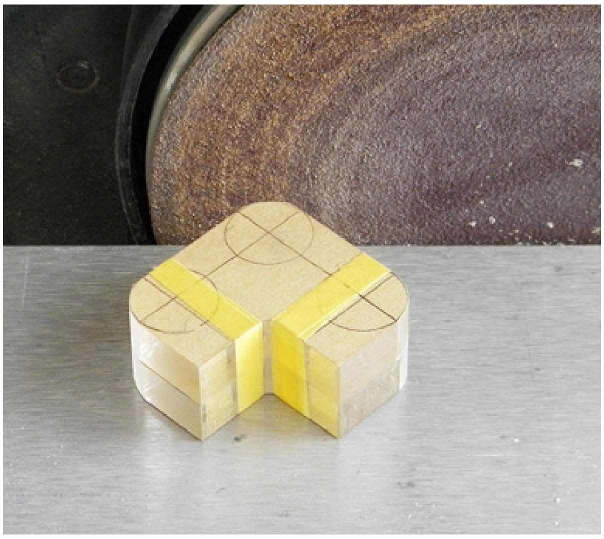
1. 厚さ 10 ミリのアクリル板を 40 × 40 ミリで切り取り、その一角を 17 × 17 ミリで切り取る。



2. 角を適当な大きさで削り取る。写真はテンプレート用いて印を付けているところ。

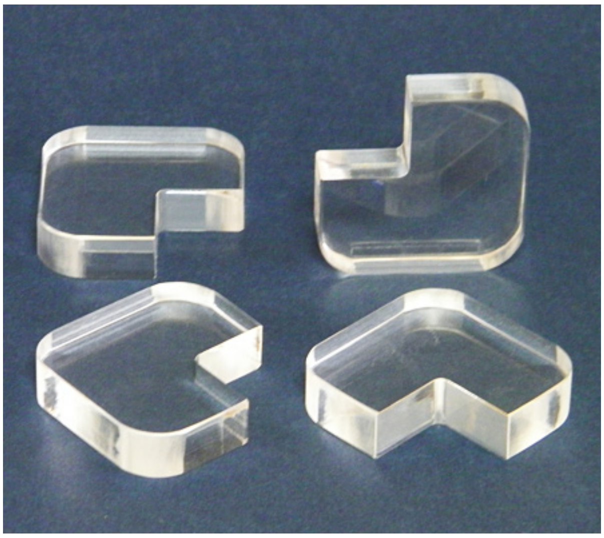


3. テンプレートで記したアクリルの小片。



4. ベルトディスクサンダーで印に沿って角を削る。

5. 削り終えたアクリルの小片。



6. 両面の面取りを行う。

砥石用オイルの容器として

ダイヤモンド砥石等オイルストーンとして使用する際にはそれ用のオイルが必要になる。しかし、市販の容器に入ったものはどうしてもオイルで汚れてしまう。技法書 (17 頁）ではスポイト瓶を用いると扱い易いように説明しているが、その容器は長く使っていると劣化してしっかりスポイト栓を締めることができなくなる。そこで、身近にある市販のラー油容器を用いる方が使い勝手が良い。それに容器のふたが傷んでも代わりのものがすぐに手に入る。

使用するには容器の中をしっかり洗って砥石用オイルを移せばよい。ただ、砥石用オイルはさらっとしているので必要以上に流れ落ちるかも知れない。それで、粘度を持たす為に椿油を混合してもよいだろう。写真のオイルが少し色味を帯びているのは、その椿油を混ぜているからである。また、蓋の開け閉めをしていると蓋が緩むかも知れない。その時は瓶のネジや蓋の中を溶剤で拭きとり、シールテープを蓋を締める方向に 2、3 回巻きつけるとよい。それから、中栓を利用すればオイルをこぼさず携帯することができる。